

西光寺だより

第七十五号 平成二八年十一月一日発行

●今月のことば●

今回は善導大師でございます。皆様もお気づきのように、ここからお勤めの節が変わります。この「善導独明仏正意」の句は親鸞聖人が、「善導大師ただ独り、仏様の正しい正意を明らかにして下された。そのおかげで親鸞、弥陀に救い授けられることができたのだ」と、一段と声を大きくして、讃えておられることから、節が変わります。重要な部分ということですよ。

善導大師は唐代の仏教全盛期時代に、都の長安にて念仏の教えをおひろめになった方で、大切なのは日々の称名念仏であることを示されました。

善導大師の代表作は、『観無量寿経疏』（四巻）であります。これは三部経のひとつ『仏説観無量寿経』の註釈であります。当時さまざまな学僧が自力修行で感銘できる世界と理解している中、善導大師は阿弥陀仏の願力によって、罪悪深重の凡夫も、真実の浄土に往生できることを明らかにされました。

そして、迷い苦しむ私たち凡夫に対して、もつとも厳しくも、もつともやさしいまなざしを向けてくださっていることを、親鸞聖人は、感動をこめて讃えておられます。

句の中ででぐる韋提希夫人が苦しみの中、お釈迦さまに助けを求め阿弥陀仏の世界に導かれてゆく様子をここで著されています。

善導独明仏正意・善導大師はただひとり仏の正しい正意を明らかにされた
矜哀定散与逆悪・自力（定散）で善行をおさめる人も、**極悪**の人も共にこれをおわれみ（矜哀）

光明名号顕因縁・如来の**光明と名号**が救いの手だてであることを明らかにされた

開入本願大智海・広大な阿弥陀如来の本願の智慧の海に入らせてもらおうと行者正受金剛心・行者は正しく**金剛**のごとく堅固（けんご）な信心を得て

慶喜一念相應後・お念仏をよろこぶ心（慶喜一念〓信）がおこったとき
与韋提等獲三忍・**韋提希夫人**と等しく**三忍の徳**を得て
即証法性之常樂・浄土に生まれ法性の常樂のさとりをひらくと述べられた
（法蔵館正信偈もの知り帳・レッツ正信偈参考）

【解説】

●**極悪**・五逆罪と十悪を造る悪人のこと。五逆罪とは、①父を殺す②母を殺す③聖者を殺す④仏の身体を傷付けて出血させる⑤教団の和合一致を破壊し、分裂させる、という重罪。十悪とは、①生きものを殺す②ぬすみ③よこしまな交わり④うそいつわり⑤人を仲たがいさせる言葉⑥ののしり⑦まことのないかざった言葉⑧むさぼり⑨いかり⑩おろかさ、という悪い行為。

●**光明と名号**・「光明」とは阿弥陀仏の智慧。「名号」とは南無阿弥陀仏。私たちの眼に見えない救いのはたらきを光明、聞くことができ称えることができる形として与えられたのが名号。（季刊せいてんNo.11）

●**金剛**・サンスクリット語で金属の中で最も硬いものを意味し（ダイヤモンド）、堅固で破壊されず、貴重なもの、すなわち他力の信心のこと。

●**韋提希夫人**・『観無量寿経』は、古代インドのマガダという国で起こされた事件が題材になっているお経です。マガダ国の王子のアジャセが、父のビンバシヤラ王を死に至らしめたという事件です。王妃の韋提希夫人は、夫である王を救おうとしましたが、それが発覚して、韋提希は、激怒した王子に刃を向けられ、殺害されそうになったのです。韋提希は殺されずに済みましたが、宮殿の奥深い部屋に閉じ込められたのです。ビンバシヤラ王は間もなく亡くなりました。韋提希にしてみれば、敬愛する夫が殺されたこと、しかも殺したのは自分が生み育てた王子であったこと、さらには、夫が殺されるように、息子が殺人者にならないように、二人を救おうとした自分が息子に刃を向けられたこと、このような深刻な苦悩の中に突然投げ込まれたのでした。

韋提希は、お釈迦さまに救いを求めました。お釈迦さまは韋提希のために、浄土に往生する教えをお説きになりました。教えを聞いた韋提希は、阿弥陀

仏の極楽浄土に往生することを願ひ、この教えによつて、心に歓喜をおぼえ、立ち直ることができたのです。

●**三忍の徳**・喜忍(信心の喜び)・悟忍(仏智をさとする心)・信忍(本願を信じる思い)であり、心が落ちつけられることをいいます。やがて、阿弥陀仏の本願を心から喜べる人は、韋提希夫人がそうであったように、現在の生活のなかで、この「三忍」を得ることになり、そして浄土に生まれると、すぐに仏にならせていただくのである(即証法性之常樂)、と善導大師はいわれました。

◆十一月・十二月・一月の行事◆

・十一月 二十三日(水・祝)

西光寺報恩講

午後二時・七時

◎本願寺派布教使 永井 了祥 師(守口市 浄宗寺)

・十二月 三十一日(土)

除夜の鐘

午後十一時五〇分

西光寺本堂

・一月 一日(水・祝)

元旦会法要

午前十一時

西光寺本堂

◆先月の報告◆

①十月一日(土) 仏教婦人会報恩講が西光寺にて厳修致しました。皆さんで正信偈行譜六首引のお勤めを致しました。そして前坊守による親鸞聖人の紙芝居や皆さんでケーキをいただきました。

年に一度の恒例行事。元氣にお顔をあわせていただく事「あたりまえ」ではなく「ありがたい」「おかげさま」と受けとめることのご縁に改めて感謝の一日でありました。役員の方々にはお茶菓子、何がよいのかと悪戦苦闘の思いでしたが、皆さんに喜んでいただき、ホッとされたことです。おかげで楽しいひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

②十月十六日(日) 西光寺にて毎川家初参式を行いました。

「お日さまの光をうけて花が咲く 仏さまの光をうけて私の心の花が咲く」

西光寺掲示板に書かせていただいた言葉であります。お父さん・お母さんの愛をうけて大輪の花が咲きました。そしてご家族の方々の心にも、大きな花が咲きました。無償の愛を受けて小さないのちが健やかに育っていかれますこと願うばかりです。おめでとうございます。 合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>